

## マヒワ（アトリ科） 全長12センチ

季節が霜降に入る頃、冬鳥のマヒワの集団が飛来してきました。

羽ばたいては翼を体側につけるので、波状飛行になり、群れ全体も波状になって移動します。数十羽から百羽ほどの群れでまとわりはよく、飛ぶときも密集した隊列を作ります。

ニューナイスズメ、カシラダカ、カワラヒワも同じような群れで飛び交い、晩秋の草地や河原は一段と賑やかになりました。



小さな種を取り出し食べている。オス。

マヒワの群れが上空を旋回しながら、草むらに吸い込まれるように降りて行った。

そっと近づいて見ると、そこは花期の終わった待宵草の群生地であった。茎には種子の鞘がびっしりとついています。

マヒワは嘴の先端が細く、狭い部分から種を取り出すことが出来るようだ。地上に落ちた種子を跳ね歩きながら食べる行動も見られます。



鮮やかな黄色のオス。



お腹に縦縞が見える、メス。

鮮やかな黄色い小鳥マヒワ。

このまま長く滞在してもらいたいところですが、やがて南方に移動してしまうことでしょう。



待宵草に群がり夢中になって餌を食べるマヒワ。



嘴の先端は細く、種を取り出しやすいのでしょう。